

会 報 《第418号》

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



令和2年8月1日

《目 次》

- | | | |
|-----|---|--------|
| I | 寄稿 | …2~3頁 |
| | 「基礎自治体の災害業務と支援」 | |
| | (一社)兵庫県建設業協会 専務理事 山田 聖一 氏 (当会監事) | |
| II | 寄稿 | …4頁 |
| | 「わが家の菜園」 | |
| | 神鋼不動産(株) 常任顧問 川端 宏幸 氏 (当会副会長) | |
| III | 施設紹介 | …5~6頁 |
| | 「横尾忠則現代美術館」 | |
| | 横尾忠則現代美術館 館長補佐兼学芸課長 山本 敦夫 氏 | |
| IV | 事業紹介 | …7~8頁 |
| | 「(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」 | |
| | 研究戦略センター 副センター長 松原 浩二 氏 | |
| V | お知らせ | …9~10頁 |
| | 行事予定、事務局だより、兵庫コロナ追跡システム
広報コーナー(住宅再建共済制度) | |



(小野市 ひまわりの丘公園 20/07/19 撮影)

I 寄稿
『基礎自治体の災害業務と支援』
(一社) 兵庫県建設業協会
専務理事 山田 聖一 (当会監事)

日本列島を襲う豪雨は、毎年その勢いを増しています。

今年も九州南部で7月3日夜から4日朝にかけて記録的な大雨となりました。加えて、8日には九州各県に加えて岐阜、長野両県にもその被害は広がり、9日、気象庁は「令和2年7月豪雨」とその名称を定めました。

近畿地方整備局の出動要請に応え、当協会会員企業からも排水ポンプ車、照明車などの操作に緊急出動しています。災害の最前線で活動するのが地域建設業の使命でもあります。

私は、県職員時代に中越地震(2004)、中越沖地震(2007)、兵庫県西・北部豪雨災害(2009)、東日本大震災(2011)、熊本地震(2016)の被災自治体支援に関わりました。

災害時、新聞・TV等では被災された方々や被災施設の状況を中心に報道され、被災自治体の災害対応については、災害対策会議や避難所運営などが少し触れられる程度です。ここでは、被災自治体に発生する災害業務と自治体同士の支援について紹介させていただきます。

【被災自治体の災害業務】

被災自治体が処理しなければならない災害業務は、多岐にわたります。

自治体が処理しなければならない災害業務

- ・ 被害状況の把握
- ・ 救出・救助活動
- ・ 避難所開設・運営
- ・ 要援護者対策
- ・ 被災者への情報提供
- ・ 水・食料の確保・配布
- ・ 物資の確保・配布
- ・ 健康管理
- ・ こころのケア
- ・ 学校再開
- ・ ボランティア募集・コーディネート
- ・ 道路啓開
- ・ ライフライン復旧
- ・ インフラ応急復旧
- ・ 建物応急危険度判定
- ・ 家屋被害認定
- ・ 罹災証明書発行
- ・ 災害ごみ処理
- ・ がれき処理
- ・ 建物公費解体
- ・ 応急仮設住宅建設・運営
- ・ みなし仮設
- ・ 応急修理
- ・ 災害弔慰金法関係
- ・ 災害救助法関係
- ・ 被災者生活再建支援法関係
- ・ 義援金募集・配布
- ・ 復興公営住宅建設
- ・ 復興計画策定

まだまだ・・・

むろん、災害に関わりのない通常業務もこなさなければなりません。

大変なのは、自治体の規模の大小にかかわらず、処理しなければならない災害業務が同じだけあるということです。もう、5年前になりましたが、熊本地震での状況をみてみましょう。

自治体規模とは無関係に発生する災害業務

		熊本市	益城町	大津町	菊陽町	
面積(km ²)		389.54	65.67	99.09	37.57	
人口		740,204	33,386	33,272	40,384	
世帯数		315,318	11,706	12,680	15,799	
職員数(一般行政)		3,559	165	136	169	
被害状況	人的被害	死者	14	21	3	3
		重傷者	254	6	9	15
	建物被害(棟)	全壊	2,379	2,557	117	14
		半壊	12,563	2,620	958	380
		一部損壊	73,331	4,884	2,456	4,706
	罹災証明申請数		92,559	11,632	4,278	4,503
最大避難者数		108,266	16,050	12,879	8,000	
避難者数(5/24)		2,511	2,932	171	56	
建物被害/職員数		25	61	26	30	
うち全半壊/職員数		4	31	8	2	
罹災証明/職員数		26	70	31	27	
最大避難者数/職員数		30	97	95	47	
避難者数(5/24)/職員数		1	18	1	0	

人口74万人の熊本市では、対応しなければならないピーク時の避難者数が108千人、罹災証明は92千件余を処理しなければなりませんでした。

同様に人口3.3万人の益城町では、ピーク時避難者数16千人、罹災証明の申請は11千件余でした。やはり人口の多い熊本市での災害業務のボリュームが大きく映ります。

ここで職員数に着目してみます。指定都市である熊本市は3,559人、益城町は165人です。単純比較ですが、職員1人あたりでは、熊本市では罹災証明26件、避難者30人に対し、益城町では罹災証明70件、避難者97人という数値になります。

私が被災地に入った2016年5月24日では、熊本市の避難者は2.5千人、益城町は2.9千人と大きくは違いませんが、これを職員1人あたりで見ると熊本市1人、益城町18人と大きな差となります。



益城町の罹災証明交付会場

加えて、大組織を抱える指定都市と小規模組織の町では、災害事務に振り向けられる人的リソースに大きな差があっても、処理しなければならない災害業務の中身は同じなのです。

[全国自治体からの応援]



熊本県庁内の応援府県市本部

このため、これまで被災自治体の行政機能を支えるため、被災地周辺に加えて、姉妹提携を結ぶ自治体、全国知事会や関西広域連合などが応援職員を派遣してきました。

関西広域連合が東日本大震災の被災自治体支援で行った、カウンターパートを決めた支援方法は、その後の災害支援においても活用されています。

関西広域連合の構成府県が役割を分担する支援は、熊本地震支援でも有効に機能しました。

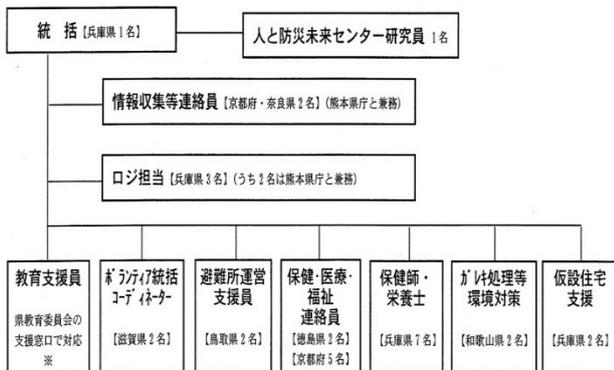
また、益城町では、関西広域連合チームが主体となって、支援に入った各機関が町を含め毎朝情報が交換できる場をもちました。効果的・効率的で室の高い支援を行う上で、情報の共有は重要なファクタとなります。

[被災自治体の受援力]

全国の自治体からの応援職員は、派遣期間が数日間であったり、数週間であったり、保健師や廃棄物処理の専門家であったりと、派遣元自治体の事情により様々です。

被災自治体にとって、応援職員の配置場所・業務のコーディネートは、災害業務の現状とその先を見通す必要がある、重要で困難な業務です。ここを自治体業務全般が見渡すことができる組織・人材構成とすることが受援を円滑で効率的なものにするポイントです。

また、全国から応援があるといっても、人的資源は有限です。被災自治体からのオーダーどおりに派遣するのではなく、支援側が全体を見渡して調整することも必要です。



関西広域連合 益城町支援チームの構成

		熊本市	益城町	大津町	菊陽町
熊本県	派遣者数	2	87	3	1
	累計	395	3,160	109	64
熊本県内市町村	派遣者数	-	9	4	4
	累計	-	196	23	47
県外自治体	派遣者数	250	184	19	15
	累計		5,240	480	497
保健師	派遣者数	0	29	7	0
	累計	0	960	221	110

2016/5/24 熊本県災害対策本部会議資料・内閣府非常災害対策本部資料より作成

自治体支援の状況



支援機関の情報共有

役場職員も被災している状況のなかで、被災市町村の行政機能の回復には、被災県が大きな役割を果たしていく必要があります。熊本県は、発災直後から被害の大きかった町に職員を派遣して情報を収集するとともに、被災町の支援にいち早く駆けつけました。

熊本県では震災以降、毎年のように水害で災害救助法が適用されており、今回の豪雨災害でも被災市町村の支援に注力されていることと思います。

被災された方々が、一日も早く日常を取り戻すことができることを願ってやみません。

Ⅱ 寄稿

『わが家の菜園』

神鋼不動産(株)

常任顧問 川端 宏幸 (当会副会長)

もう30年以上前になりますが、神戸市内のマンションに親子4人で住んでいました。子供たちが幼稚園に通う頃になり、自然環境の中でのんびり育てたいと思っていたところ、加古川の叔父から農地を譲ってもらうことになり、自宅を建て、引っ越しました。その年に子供が一人増えました。

譲ってもらった土地は、結構広い畑地でしたので、その一部を菜園で残すことにしました。

野菜づくりのノウハウは、近くのおじさんたちに教えていただいたり、苗を頂きながら、30年が経ち、なんとか独り立ちすることができました。

生活の変化でいうと、どうしても農作業が土日になりますので、週日から週末の天候が気になり、よく外を眺めるようになりました。手前味噌ですが、その頃から少し社会を見る視野も広がったような気がします。

また、夏になると、朝夕の水遣りが欠かせませんので、朝早く起きたり、仕事が終われば、早く帰るようになり、ライフスタイルも変わりました。

おかげさまで、新鮮な野菜が食卓に上ることになりましたが、どうしても作りすぎてしまうので、近所や職場の方にお持ちすることになります。

しかしながら、形が不ぞろいだったり、中には青虫がいることもありますので、事情をご存知の方にしか配れません。



手前から、キュウリ、ナス、右上はビワの木

肝心の子供たちといえば、ほとんど興味を示さず、「ネギを取ってきて」といえば、玉ねぎの苗を抜いてくる始末で、少し期待外れでした。

それでも、菜園をとおして来る涼風は、気持ちよく、絵にかいたような『晴耕雨読』のライフスタイルを過ごしています。

ここ10年間の変化でいいますと、農作業は、どうしても腰に負担となり、慢性的な腰痛となりましたので、耕運機を購入しました。

また、用水は近所の方から引かせて頂いていたのですが、宅地化の進行に伴い、難しくなってきましたので、自家用の井戸を掘り、ポンプアップしています。



手前は、トウモロコシの苗、中央は、トマト

定年後は、時間の余裕ができ、今年こそはこの品種をうまく育てようと意気込みますが、同じような失敗を繰り返すばかりで、なかなか上手になりません。

また、できるだけ無農薬を心掛けていますが、トマトやスイカなど食べごろになると、鳥やカナブンにつつかれることになり、防虫ネットをかけるに大わらわです。

この4月7日にコロナ感染症対策として、緊急事態宣言が発令され、弊社でも原則として在宅勤務(テレワーク)となり、往復約3時間の余裕ができることとなりました。

その分、畑や庭の手入れに時間をさけることになりましたが、夏になると、朝夕の涼しい時間帯に作業をしないと熱中症になりますので、健康管理も怠れません。

しかしながら、ポスト・コロナ時代を迎えるうえで、都会から離れた多自然居住とともに、ガーデンハウスや家庭菜園の活用が望めますし、すでにその動きもあるようです。

このようなライフスタイルに移行するには、様々な条件や制約があるとは思いますが、そのような機会があれば、是非、チャレンジしていただければいかがでしょうか。

Ⅲ 施設紹介 『横尾忠則現代美術館』

館長補佐兼学芸課長 山本 淳夫 氏

《世界的アーティスト》

1936（昭和11）年、現在の兵庫県西脇市に生まれた横尾忠則は、84歳を迎えた現在もなお国際的に活躍しているアーティストです。1960年代には状況劇場や天井桟敷などのアンクラ演劇のポスターで注目を集め、日本のデザイン界に新風を巻き起こしました。1980年代はじめには「画家宣言」を行い、グラフィックデザイナーから画家へと転向。2015年には第27回高松宮殿下記念世界文化賞の絵画部門を受賞するなど、画家としての評価も揺るぎないものとなっています。



《宙に浮くキューブ》

横尾忠則現代美術館は、横尾さんから寄贈・寄託された作品や資料を適切な環境で保管し、多くの方にご鑑賞いただくため、かつて兵庫県立近代美術館の西館として使われていた建物を改修し、2012（平成24）年に開館しました。

隣接する原田の森ギャラリー（本館、別館、東館の3棟）とともに、オリジナルの設計は村野藤吾によるものです。なかでも原田の森ギャラリー本館（1970年竣工）と横尾忠則現代美術館（1982年竣工）は1Fがガラス張りで、特徴的な柱で2F以上を支えることで、まるで立方体が空中に浮遊しているかのようなユニークなデザインとなっています。

かつて近代美術館時代には本館の前庭に池がありました。ガラス張りの1F彫刻展示室との相乗効果で、内部と外部とが一続きになったかのような、より開かれた建築空間となっていました。現在池は埋め立てられ、1Fのガラス面も内側から展示壁で覆われていますので、残念ながらかつてのような透明感はありません。そういう意味では、唯一横尾忠則現代美術館だけが、「宙に浮くキューブ」

というコンセプトを今によく伝えているといえるでしょう。とはいえ、原田の森ギャラリー本館エントランスのスロープや間接光、別館（本館南側）の螺旋階段の曲線美などには、村野建築ならではの魅力が詰まっていますので、横尾忠則現代美術館に来られた際には、併せて原田の森ギャラリーのディテールもチェックしていただければ幸いです。



《多彩な活動》

横尾忠則現代美術館は地上4階建の建物で、鉄筋コンクリート造（南側EVホール）と鉄骨造（北側展示室など）という、それぞれ構造が異なる建物をエキスパンション・ジョイントで連結しています。古い建物をリノベーションした関係上、館内に講義室やワークショップ室などを設けることができなかったため、あらゆる関連イベントを1Fエントランスのロビーで開催しています。

我々学芸員による解説会や大人も子どもも参加できるワークショップ、横尾さん本人による公開制作、横尾さんと交流のある様々なミュージシャン（細野晴臣、あがた森魚、玉置浩二ほか錚々たる方々）のライブなど、これまで多彩なイベントを開催してきました。



無料で入れる1Fロビーには、ミュージアムショップもあります。カラフルな横尾さんのオリジナルグッズは大人気で、特にアパレル類は入荷した端から売れてしまうものもあります。1960年代の横尾さんのカリスマ的な人気を知らない世代でも、

これらのグッズを目当てに来館する若いファンもおられるようです。



2F、3Fは展示室です。さほど広くないので常設展示は設けず、すべての展示室をフル活用した企画展を年に3回程度開催しています。横尾さんは実に膨大かつ多彩な作品を制作しており、ひとりのアーティストの作品を題材に、これだけバリエーションに富んだ展覧会を企画するのは、他の作家ではなかなか難しいでしょう。

われわれ学芸員も、毎回異なった空間を体験していただけるよう、ディスプレイにも工夫を凝らしています。例えば「兵庫県立横尾救急病院展」(2020年2月1日～8月30日)では、なんと美術館が病院に大変身しました。



展覧会を見終わったら、ぜひ最上階の4Fにもお立ち寄りください。アーカイブルームでは、横尾さんの手もとに長年蓄積された資料を整理・保存しています。デザイナー時代の横尾さんは、演劇、音楽、文学、映画など実に様々なジャンルの名作ポスターを生み出しました。先述したアングラ演劇のほか、小説家三島由紀夫や映画監督大島渚をはじめ、様々なクリエイターとコラボレーションしています。なのでこれらの資料を調査・研究することは、横尾さんの芸術のみならず、日本の戦後文化をより深く理解することにもつながります。

事前予約制で我々学芸員立ち会いのもと、貴重な資料を手にとって見ていただくことも可能です。



アーカイブルームの隣には、通称「目玉廊下」があります。加古川線のラッピング電車「見る見る早い」のデザインを流用したカラフルな空間で、自撮りスポットとしても大人気です。

アーカイブルームの北側には休憩・閲覧コーナーがあり、本来なら当館の図録のほか、横尾さんの関連書籍を自由にお読みいただくことができます。残念ながら、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため図書の閲覧を中止していますが、かわりにぜひ素晴らしい眺望をお楽しみください。六甲山系のパノラマ、緑豊かな王子動物園、神戸文学館などが眼下に広がっています。



美術鑑賞の後は、ぜひ併設の「ばんだかふえ」で余韻をお楽しみください。特徴のひとつは、横尾さんデザインの食器でランチやコーヒーが楽しめることで、カレーを食べ進めると下からドクロ模様(!)が現れたりします。

1904年、もとは関西学院のチャペルとして建造された、風情豊かな煉瓦造りの神戸文学館を、より間近に眺めることもできますので、皆様の建築ウォッチングがてらのお越しをお待ちしています。

IV 事業紹介

「ひょうご震災記念21世紀研究機構」 研究戦略センター 副センター長 松原 浩二 氏

1 はじめに

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構（理事長：五百旗頭真）は、神戸市中央区から灘区にかけての海岸沿いのまち「HAT神戸（Happy Active Town）」と呼ばれるエリアの中心部に立地しています。



HAT神戸は生田川から西郷川（にしごうがわ）までの間の海沿い、約75ヘクタールに及ぶエリアで、約1万2千人の方が暮らしています。もともと神戸製鋼、川崎製鉄という大企業の工場がありましたが、工場の移転などにより土地の利活用が課題となっていた頃に、阪神・淡路大震災が発生しました。

その後、このエリアは復興まちづくりのモデルケースとなりました。大きく分けて、安全・安心に関する内外への発信拠点、いわゆる国際防災人道支援拠点の機能を有するエリアと被災者が入居する災害復興公営住宅等の住まいのエリアで構成されています。道路幅が広く見通しがよいうえ電線も地中化されているので、とてもすっきりとしたまちなみが続いています。東端にある西郷川河口公園では、早春になると河津桜や菜の花が咲き誇り、一足早く春の訪れを告げてくれます。

国際防災人道支援拠点という発想は、大震災当時、被災地に対して、内外から多くのご支援をいただいたことに感謝し、これからはこの地を世界に向けた安全・安心に関する調査研究や発信等の拠点にしていこうとする思いから生まれたものです。

そこには、人と防災未来センターやこころのケアセンターをはじめ、国連の人道問題調整事務所（OCHA）、国際防災機関（UNDRR）、アジア防災センター（ADRC）、国際防災復興協力機構（IRP）、国際協力機構（JICA）の関西センター、世界保健機関（WHO）健康開発総合センター、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）センター、国際エメックスセンター（EMEC S）、地球環境 戦略研究機関（IGES）関西研究センター、さらには兵庫県災害医療センターや神戸赤十字病院、兵庫地方気象台、兵庫県立大学大学院など、あわせて19機関が立地しており、国際防災・人道支援協議会（DRA）を形成し、協働してシンポジウムの開催や海外被災地の支援などを行っています。



（西館ライトアップ）

2 機構の設立

ひょうご震災記念21世紀研究機構は、兵庫県のシンクタンクです。被災地のシンクタンクですので、阪神・淡路大震災の教訓から得た21世紀の成熟社会の基本課題である安全なまちづくりと共生社会の実現に軸足を置きながら、総合的なシンクタンクとして調査研究や発信を行い、21世紀文明の創造に寄与することをめざしています。

この機構は、当初、（財）阪神・淡路大震災記念協会として、平成9年12月に設立されました。

設立の経緯などについて、少しご説明します。阪神・淡路大震災では、地元主体の復興が進め

られましたが、国においても、「阪神・淡路復興委員会」が設置され、政府が進める復興特定事業の一つとして、「阪神・淡路大震災記念プロジェクト」が宣言されました。

これを受けて、国、兵庫県、神戸市、民間で構成する記念プロジェクトの内容についての検討委員会が設置され、そこでの検討を経て阪神・淡路大震災記念協会を設立することになりました。



(国際会議 風景)

その設立趣意書の内容について、少し長いですがご紹介します。

「人類史上初めての高齢社会下の大都市地域直下型地震による大災害であった阪神・淡路大震災により、私たちは、生命の尊厳やともに生きることの重要性、また、近代都市の脆弱性など、人類が営々と築き上げてきた20世紀文明に対する大きな反省と多くの教訓を得ました。今、阪神・淡路地域では、これらの反省や教訓を基に、単に被災地を元の姿に戻すだけでなく、高齢化、国際化、成熟化、情報化などの21世紀に向かう時代潮流を見極め、転換期にある日本の社会、経済システムの抱える課題を克服するために創造的復興を目指して、様々な事業展開や懸命の努力がなされています。

特に、被災地の復興につながり、我が国の発展に寄与するもの、あるいは次の世紀にふさわしい新しい文明の形成の契機となる事業などで阪神・淡路大震災を永く人々の記憶にとどめ、震災からの復興を記念する事業等を地元の責任

として展開していく必要があります。このため、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、人類の安全と共生について、総合的な調査研究及び実践を行うとともに、その成果の公開及び震災記念となる構想の具体化方策について調査研究を行うことにより、災害対策はもとより、大都市機能の改善等、人と自然が共存する安全かつ適正な国土の形成に資し、もって21世紀文明の創造に寄与することを目的とする財団法人阪神・淡路大震災記念協会を設立しようとするものです。」

その後、平成18年4月に、(財)21世紀ヒューマンケア研究機構と統合し、現在の組織となりました。4年後には公益財団法人に移行しています。

3 機構の事業展開

機構は、研究戦略センター、人と防災未来センター、こころのケアセンターの3センター体制で事業を推進しており、同じ建物内にある兵庫県立大学の防災・復興に関する大学院などとも連携し、外部の研究者等ともネットワークを組みながら取り組みを進めています。人と防災未来センターとこころのケアセンターは、それぞれ兵庫県が震災を教訓に設置した施設ですが、機構がその指定管理団体としてアンブレラのような組織を形成しています。



(心のケアセンター 音楽療法風景)

V お知らせ

◎行事案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、11月に予定していました見学研修会を中止し、奥田先生の講演に変更いたしました。今後の予定は以下のとおりですのでご了承ください。

1 特別講演会

日時：令和2年8月6日（木）

講演会 16:00～17:00

交流会 17:00～18:30

場所：東急REIホテル

演題：「ポストコロナ時代の兵庫の展望」

講師：兵庫県副知事 金澤 和夫 氏

2 第486回月例会

日時：9月10日（木）

12:00～14:00

場所：東急REIホテル

演題：「関西モダニズム建築

近代神戸の小学校建築史」

講師：京都華頂大学教授 川嶋 智生 氏

3 第487回月例会

日時：10月8日（木）

12:00～14:00

場所：東急REIホテル

演題：「日々の暮らしにクラシックを」

講師：チェロ奏者、大阪音楽大学講師

植木 美帆 氏

4 研修交流会

日時：令和2年10月22日(木)

場所：城山ゴルフ倶楽部

5 第488回月例会

日時：11月19日（木）

12:00～14:00

場所：西村屋和味旬彩

演題：健康マイプラン

「災害時の食はどうあるべきか」

講師：甲南女子大学名誉教授

奥田 和子 氏

なお、これら行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑みて、中止、延期等が想定されます。変更等のお知らせは郵便、メール等でご案内しますのでご了承ください。

◎ 兵庫県新型コロナウイルス追跡システムの登録

新型コロナウイルス感染症の感染者が東京を中心に拡大傾向にあり、不安な日々が続いております。

先にお知らせいたしました、この度兵庫県では本格的な営業再開が進む店舗・施設やイベント会場における感染拡大防止を図るため、クラスター発生時等に迅速に利用者への注意喚起情報を提供する「兵庫県新型コロナウイルス追跡システム」を構築しました。

同システムへの登録、填補等利用者へのQRコード読み込みの呼びかけなどにより、迅速で的確な対応が図れると思われまますので、ご活用ください。（以下のアドレスからアクセスできます）

新型コロナウイルス感染症に係る「兵庫県緊急用トップページ」のリンクですので、ご活用ください。

<http://web.pref.hyogo.jp/index.html>

◎事務局だより

○ 某新聞に「ちびまる子ちゃん」の第1回放送は夏休みから始まったという記事を見ました。

今年の夏は、海水浴や遊園地など、色々なところで楽しそうな子どもたちの声が聞こえる例年の風景とは違ったものになりそうです。

そもそも日本における「夏休み」は自営業、農家等の子弟が家業の手伝いを行いやすくするためとか、商家の藪入りの習慣から来ているといわれていますし、奈良時代にも国の大学生、国学生は「田仮」という制度により、稲刈りの多忙な時期に15日間休暇が与えられていたという記録があるそうです。

いわば「夏休み」は、日本の伝統や風物詩の中に生き続けてきたのではないのでしょうか。

早く普通の生活が、日本の夏が戻ってくることに日々思いはせています。

新型コロナウイルスの猛威は新しい段階に入ったようです。会員の皆さんにはご多忙中とは思いますが、ご自愛いただきますようお願いいたします。

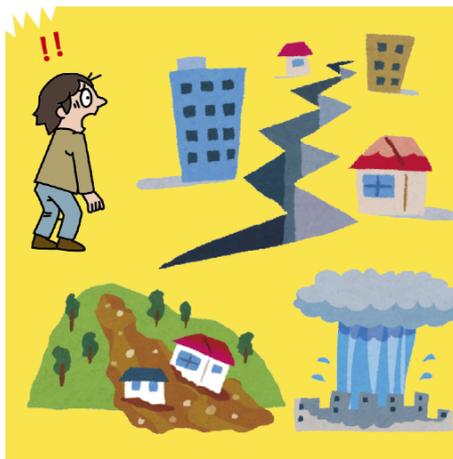
事務局 : 吉本義幸、石井滝実子
電話 : 078-996-2851
FAX : 078-996-2852
Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

安心をカタチに

兵庫県住宅再建共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」



今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ!**

県内に住宅(戸建て・マンションなど)をお持ちの方に

住宅再建共済

年額5,000円で
再建、補修時等に
最大**600万円**給付!

※半壊(損害割合 20%)以上

一部損壊特約

年額500円で
補修時等に
25万円給付!

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅(借家含む)にお住まいの方に

家財再建共済

単独加入 年額1,500円で
住宅とセット
加入の場合 年額1,000円で
購入・修復時に 最大**50万円**給付!

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定(損害割合)は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikln@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 加入申込書はダウンロードできます

「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です!

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。

兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.iutakusaiken.jp/>